

童

2019年3月1日。

リンゴ畑の雪の上に、きれいに剪定の枝が束になっている光景が広がっています。それも、2月初旬から見かけるようになりまして。リンゴの飯綱町の光景です。そして、そこで働く人達の姿も、高齢者が多いですが、本当に、丁寧に忍耐強く整然ときれいに揃えていく姿に感動します。先日、クロカンで子どもたちとリンゴ畑を歩いていると、雪焼け帽子の白い目出し帽（女性が美容のため、顔面パックをしていると同じ）をかぶりやってくる人に遭遇して、子どもたちが「お化けだ、ありゃ何だ！！」とご近所の親しい人に声を掛けたのには、まいりました！？

連日、子どもたちと田畑を歩いていると、本当に季節の早さ、移り変わりを痛感します。今年も、去る冬が恋しくなるほど、すっぱり雪に埋もれた、包まれたという世界が長く続きませんでした。冬と雪に包まれ、じっと春の訪れを待つ、雪の下のおひきのとうや春の訪れをまつ植物のような耐え忍ぶ冬が、恋しくなります。雪国の暮らしは、雪国の人々に忍耐力や我慢強さをもたらすといわれてきました。このまま温暖化が進んでいけば、地球環境のみならず、内面的精神的な忍耐力などにも影響があるかもしれません。

子どもたちとのクロカン遊びも、わざわざ厳しいところ、無茶な所を歩いています。これは困難を越えて欲しいと思って最初は、こんな場所を選んでいきましたが、子どもたちにとっては、アスレチックと同じように、奇想天外、スキーと言う技術や滑りを越えて、遊びで逆にどこでも意欲的に挑戦して、笑って行くのは予想外、これでは、こちらが体力的にも、これでもかこれでもかとやり続けなければならず、もう降参です！！

やはり、忍耐力や我慢強さを生むには、バックカントリーや雪山登山しかないかと、考えてしまいます。でも、大地の子どもたちは、きっとそんなことでも、笑顔の遊びにかえてしまうのでしょうか。恐るべし！！！！！！



【久しぶりの東京】

お話をするために久しぶりに東京へ行ってきました。長野でも電車やバスに乗ることがほとんどないので、青ちゃんにとっては、この電車やバスは大きなストレスです。密室的な空間ではなく、スマホを手にする能面のような集団とその沈黙に身の毛がよだち、その空間に入るだけで、何か地獄への待合室か収容所にいるような自分を想像してしまうからです。ひたすら、スマホ人種と空気を共有しないように、ひたすら本を読み続けることが逆に快感で、自分が地球へやってきた姿を変えた宇宙人だとほくそ笑んでいました。（地球の空気が合わなく、久しぶりに風邪をひいています）

妻は、昼間のおはなし会、青ちゃんは夜のおはなし会だったので、池袋で昼に別れ、青ちゃんは、池袋の友人宅へ。ほとんどアポなしにも関わらず、昔野外教室で遊んだ子ども（もう35歳になるお母さんだが）の親（同年齢）とおしゃべりをして、またまた偶然にその野外教室に来ていた子達2人に会う事ができ、更に、カナダに移り住んでいた別の野外教室の子ども（この子には、雄飛が世界放浪で2度もカナダでお世話になっていた）に帰国中のものすごいタイミングで、会うことができました。まさに奇跡の連続の出会い。平日の昼間だというのに。

更に、自転車を借りて、母校へのサイクリング。途中 池袋西口徒歩5分の共同便所4畳半風呂なし、畳半畳のキッチン付き、家賃18000円、電話取り次ぎの懐かしいアパート（青ちゃん24歳保育士養成学校学生、妻と時折過ごした場所）界限を走り、懐かしい通学路を走り、母校へ。もちろん、当時の先生はほとんどいませんが、付属幼稚園の園長は90歳の現役だったので、この人だけは唯一の知り合い。ようやく認定こども園になったので、自信と誇りを持って、他のスタッフや現役の校長たちと話が盛り上がり、楽しい面白い事を大地と学校で一緒にやりましょうということで、凄い出会いになりました。

夕方7時からのおはなし会。余裕を持って最寄りの駅（以前通っていた駅とは違う）につき、隣の交番で場所を聞いたところ、グズグズわかっていない感じ。先に着いている妻に電話しても繋がらない。このあたりから不安が頭にもたげ、あちこち汗びしょりになり迷子になり歩き続け、到着は10分前。何の打ち合わせもなく、ぎっしり人の詰まった会場の前に通され、座ったところは目の前に松岡先生。「まあ、よく来て下さいました」と挨拶を交わし、プログラムを見て、「俺って トップバッターの一番！？」大勢の観客の前に立ち、夜のスポットライトを浴び、普通ならばお決まり通り、何の挨拶もなく、いきなり題名を言ってお話に入るのが定番であり掟のようなもの。

今回のおはなしは「川へ落ちたたまねぎさん」。朝から遠い道を歩き続けてくたくたに疲れているので、この上歩く事はできません・・・」の文句が浮かび上がり、「長野の雪の上から来た雪焼けした顔の青山です。子どもたちと連日雪の上を歩いており、今日はゆっくりしようと思ってきましたが、道に迷い、遠い道を歩き続けて、くたくたに疲れているので、この上おはなしをすることができません。こんな主人公びつたりの心境でおはなしを始めます」と我ながら最高の入りで始めることができ、松岡先生をはじめ、皆さんに大いに楽しんでいただき、最高の満足感でした。まさに災い転じて福となす、本日は最高の出会いと満足感でいっぱいでした。

夜遅く、末っ子のシェアハウスで泊まりましたが、固い床の布団と冷蔵庫の音で眠れず、更に風邪気味で体調が最悪の翌朝となりました。銀座のナルニヤや午後楽しみにしていた落語にも行く気が出ずに、昨日とは違って変わってやる気なし、これは完全にスマホ王国にやられたと寝ていると、ふと誰かに会いたくなかった、それも平日なので、自営業者や退職者や自由業者しかいないので限られてくる そんな中で、絶対に繋がらないだろうと思われる大地OB家族（子どもは20歳）に電話したら奇跡的に繋がりと、それも家族3人揃って会うことができるという事。世界的に活躍するようになった人達だけでも、偶然に日本にいて、早速10年ぶりに再会、感激。お互い大地にいた頃と同じように、ばかなことを言い合い、当時を思い巡らすことができました。10年一昔、サイクルが廻り、再び、これを起点に面白い事がまたまたできそうです。

こんな今回は、偶然必然な出会いがまるでジグソーパズルのように組み合わせたり、本当に凄い2日間になりました。風邪というお土産を持ち帰りましたが、これはゆっくり身体を休めて、この偶然の意味をしっかりと噛みしめて、これからのことを考えろ と言うことでしょうか。それでも、やはり都会へ行くと、ドラマの「この地球上にはこれ以上の繁栄はいりません」を痛感して帰ってきます。

行きのバスで読んだ岩波少年文庫の「ナンセン伝」P150

「少なく求めることは、多く稼ぐことよりも良い資本です。多く稼ごうとする要求は、人間を束縛して奴隷にしますが、少なく済ませる能力は人間を自由にします。要求することの少ないものは、自分の目標にむかって努力することが、いっそうたやすいでしょうし、多くの欲望をもつものよりも、一般に充実した、豊かな生活をおくるでしょう」